



- P2 補正予算ピックアップ
- P3 賛否一覧
- P4~11 一般質問で町政を問う
- P12 常任委員会活動
- P13 最近の議員活動
- P14 要望書、編集後記

第50号

議

会 だ よ り

■ 標題は六角小学校6年木室明菜さんの作品です



■表紙は有明東小学校1年 徳永莉夢さんの作品です「運動会」

一般会計補正予算 **2億2,519万円を増額・可決**

〈子どもの学習環境改善事業など〉
一般会計予算総額は141億1,519万円に

6月定例議会は、9日から16日までの8日間で開催された。44の議案について審議が行われ全議案が可決された。一般質問は8人が行い、農業の振興策や防災などについて執行部と議論を交わした。また、農業委員会委員の任命については、37人全員に同意した。

ピックアップ

◆コミュニティ助成事業(500万円)

宝くじの社会貢献事業として、コミュニティ活動に備品の整備などに係る費用の助成するもの。



◆産地パワーアップ事業(632万円)

農業の競争力強化を図るため、玉葱べと病の対策としてポイントとなる土づくり用の推進に必要な機械の購入費用の一部を助成するもの。

◆農業基盤整備促進事業(5,500万円)

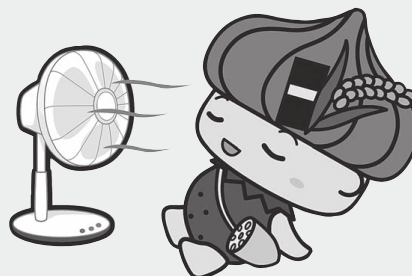
国庫補助事業の今年度予算配分が確定したため、農道の未舗装路線の舗装工事を行うもの。

◆白石基盤整備促進事業(6,518万円)

農業の競争力を強化するため、農地の暗渠排水の基盤整備を促進するもの。

◆子どもの学習環境改善事業(4,740万円)

施設整備の効率化のために、小学校にエアコンを設置することに伴う高圧受変電機の撤去、屋上補修工事を合算発注するようにするもの。



賛否一覽

町長の提案理由説明

平成29年6月議会定例会には、
6月12日⇒4人 6月13日⇒9人
6月14日⇒1人
の傍聴者にお越しいただきました。
皆さんの傍聴をお待ちしています！



賛成 …… ○ 反対 …… ● 欠席 …… 欠

	議案番号	議案	結果	友田香将雄	重富邦夫	中村秀子	定松弘介	川崎一平	前田弘次郎	溝口誠	大串武次	吉岡英允	片淵彰	草場祥則	井崎好信	内野さよ子	西山清則	溝上良夫
6月定例会	25	専決処分の承認 (税条例等の一部を改正する条例)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	26	専決処分の承認 (国民健康保険税条例の一部を改正する条例)	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	27	専決処分の承認 (平成29年度国民健康保険特別会計補正予算(第1号))	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	28	専決処分の承認 (平成29年度後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号))	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	29	佐賀県市町総合事務組合を組織する地方公共団体の数の増加及び同組合規約の変更	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	30	白石社会体育館改修工事請負契約	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	31 ～ 67	農業委員会委員の任命	同意															
	68	平成29年度一般会計補正予算(第1号)	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	発議1	議会議員政治倫理条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※議長は賛否の意思表示をすることはできません。

同意した議案第31号から第67号までの農業委員会委員

岩永廣康氏、吉原春樹氏、溝上博信氏、宮崎裕二氏、木室徳好氏、吉岡保則氏、
溝口修一郎氏、永石恒弘氏、野田弘之氏、赤坂隆義氏、松尾利助氏、小野愛子氏、
川崎敏樹氏、川崎勝巳氏、川崎 薫氏、香月伸幸氏、香月幸雄氏、中村康則氏、森口弘実氏、
田口千津子氏、池上勝文氏、津田 保氏、小柳眞佐美氏、中村秋男氏、木下善明氏、
山口八州男氏、片淵久司氏、井崎陽子氏、片淵秋正氏、森 邦之氏、南條喜代己氏、
中村勝郎氏、岩石 学氏、石田義明氏、光武直広氏、井上保博氏、香月一夫氏





定松弘介 議員

問 集中豪雨等による冠水被害の対策は

答 可搬式ポンプの設置も考えて、その上、地域間の排水には、住民相互の理解と協力が必要協力が必要

議員 3町合併後

における浸水被害と、それ以前の特出すべき水害について問う。
建設課長 近年では、平成24年7月13日(降水量260mm/日)と、昨年の6月22日(230mm/日)、9月18日(232mm/日)の集中豪雨が あった。浸水被害の場所は、白石地区では、白石中学校前、稲富胃腸科付近、白石石油センターから、みのつ酒

屋付近の町道、馬田交差点付近でスーパ―いずみや前、喫茶店南風前の県道が水深30cm位の道路冠水があり、一部では床下浸水もあった。また、有明地区では廻里津区の錦江団地内道路、国道207号廻里津交差点付近戸ヶ里区の弥福寺前の町道や、国道207号深浦の百貫橋付近が冠水した。この大雨により水田も冠水し、

農作物のキャベツ、大豆、玉葱等にも多大な被害が出た。

合併以前の3町内での被害は、平成2年7月2日(330mm/日)の記録的集中豪雨で発生した。この大雨により六角川堤防が決壊し、下蓑貝、馬田付近、廻里津では1m前後の浸水被害となった。

議員 廻里津区の

錦江団地、戸ヶ里区の弥福寺南交差点では毎年異常な冠水がみられる。天災とはいえない災にもなりかねない。この事態の解決を、地沈51号水路の改善で円滑な排水が出来るのか、冠水時にどのような対策をとつてきたのか問う。また、これからの整備計画は。

建設課長 排水対策

として、毎年5月に排水対策調整会議で大雨が予想される時期の各排水ゲートの調整をグート操作員の方々にお願いしている。廻里江川の防潮水門の

開閉は操作委託をして昼夜対応している。しかし、ここ数年のゲ

リラ豪雨では強制排水が追い付かない事もある。非常時には、まず水路の水位を下げる事が一番重要である。

農村整備課長 町内

270kmに及ぶ地沈水路の貯水量は、530万tの雨水が貯水出来る。思いきった排水操作で浸水被害が軽減されると考えられる。各地域の協力で被害を未然に防げるのではないかと考える。

議員 地沈51号水

路の排水が重要な課題。幾つかの方法が考えられるが、地沈51号水路から50号水路への貫通水路による自然排水と、51号水路の末端(馬淵樋管)での強制排水ポンプの新設の考えは。

農村整備課長 地域

の関係者の理解と協力を得て、ポンプ、水路の整備必要性を含め浸水被害の対策を検

討したい。

町長 長期的懸案であるが、地域、町、県

問 白石町を全国的にPR出来る公共施設の効果的な活用は

答 有効的な活用には制約はあるが、検討していく必要がある

議員 白石町は3

町合併により他町に類を見ない文化施設を有する町であるが、近年の利用状況について問う。

生涯学習課長 公民

館の要素(社会教育施設・集会施設)の総合センターと福富ゆうあい館は、リズムダンスや伝承芸能の太鼓の定期利用団体、一般社団法人主催の企業イベント、有名劇団の観劇、学校行事、地域団体総会等々多数利用されている。

企画財政課長 文化振

興財団管理のふれあい郷(自有館・爽明館・遊喜館)は、各種交流事業の拠点として活用されている。町内はもとより町外の方々からの利用も多くみ

の関連があるので、慎重に協議して進めていきたい。

議員 これからの

イベントの実施計画は、9月にオリンピック金メダリスト岩崎恭子さんを迎えての水泳教室を企画している。この事業は町内外からの参加者もあり、白石町のPR効果も望める。

議員 各施設が町民の文化・教育・健康管理維持のための活用も大変いい事であるが、マスメディアを使い、全国に白石町のPRも出来ないか。

企画財政課長 有名マスメディアの利用にはかなりの制約があるが、その中でも検討する事も大事と考える。



草場祥則 議員

問 農業における人口減少や高齢化に伴う影響は

答 5年後、10年後においては、離農者の増加が予想される

議員 本町の基幹産業である農業分野において、人口減少や高齢化に伴う影響をどのように考えているのか。

町長 現在の農業情勢は、農業従事者の高齢化や後継者不足などにより、5年後、10年後においては、離農者の増加が予想される。現在の任意組織である集落営農のま

までは対応できない。また、大規模農家も現在の規模で手いっぱいという方も多く、離農される農家の農地を個別の担い手で受けることは困難と考

えている。このため、集落営農の法人化により、法人が農地の受け手となっていただけでなく、規模拡大を目指す個別担い手に農地を集積して白

石農業を守っていくことが必要と考えている。

農業振興課長 農業従事者の高齢化と離農者の増加による農地の維持確保につい

ては、まず、米・麦・大豆の経営については農地の受け手となる集落営農の法人化を支援していく。個人経営となる園芸関連では、国、県の事業を有効に活用し、省力化等による規模拡大が可能となる環境づくりを推進していく。また、国、県の助成制度や、しろうし農業塾などの事業を実施しながら新規就農者の確保に努めていく。

議員 若い人たちに、農業が魅力ある産業と感じていただけるような方策と、これからの本町の農業を担う人材育成の考えは、

農業振興課長 農業が魅力ある産業と感が

じる方策としては、まず生業として儲かる産業である意識してもらうことが重要である。本町でも新規卒者の就農は少ない状況で、会社等を退職して農業を始める人は年間30名前後である。その方々の経営作物はレンコン、玉葱など露地野菜とイチゴ、きゅうり、アスパラ等の施設園芸の収益の高い作物と米・麦を複合的に作付けされており、農業所得の向上を図られている。白石青年実業会や町新規就農者確保協議会、しろうし農業塾などにより新規就農者を確保し、併せて経営感覚を備えた後継者の育成を今後も図っていきたいと考えている。

問 少子化や人口減少などの課題解決のため広域的な取り組みを

答 可能な限り取り組める分野での連携を図っている

議員 少子化や人口減少などの課題を解決するために、近隣の市町と連携して広域的に取り組む必要はないか。

町長 観光の振興、本町の農業体験と近

隣の温泉地や町内の民泊などの広域的なグリーンツーリズム、他市町との事務の共同化など取り組める分野においては可能な限り広域での連携を今後も推進する。



●佐賀女子短大との包括連携による農業体験

※グリーンツーリズムとは…緑豊かな農山漁村でゆっくりと滞在し、訪れた地域の人々との交流を通じて、その自然、文化、生活、人々の魅力に触れながら体験などを楽しむこと



内野さよ子 議員

問 白石町総合管理計画の財源はどうするのか

答 一般財源・基金・地方債をバランスよく活用していく

議員

平成26年総務省の通知では、管理計画の策定にあたっては議会や町民への十分な情報提供を行うとされていた。これから再配置を行うに当たり、どのように周知していくのか。

白石創生推進専門監

策定段階においては議員への説明会、町民への意見公募、また策定後には町内全世帯への概要版の配布

して、「事後保全型維持管理」から「予防保全型維持管理」に転換していきたい。

議員 施設総量最適化のための数値目標を九州平均水準に近づけることを目標に、現時点から30%の削減を目指すとしている。目標を達成するまでの長寿命化、維持管理、減築などの必要な財源はどのように考えているのか。

白石創生推進専門監

計画期間を平成29年度から48年度としている。維持管理コスト削減のみ優先ではなく「持続可能な行政運営」「適切な公共サービスの提供」の両立を目指したい。財源として一般財源や基金、地方債などを活用していきたい。

議員

現在、過疎対策事業債があり充当率100%交付税算入率70%と率が良い。

しかし過疎指定が平成32年度まで、また合併特例債も平成31年度に終了する。基金の使い方や財源確保はどう考えているのか。

企画財政課長 基金

の積立にも配慮し、地方債の確保には他の事業とのバランスを考えてやっていきたい。

議員

計画におけるフォローアップ事業（進行管理）に関して、議会や行財政調査委員への評価結果の報告は明記しておくべきではないか。

白石創生推進専門監

行財政調査委員は空席となっている。

議員 総合計画の評価・検証にも位置づけている行政と町民代表の専門の委員会が必要では。

白石創生推進専門監

平成29年度は設置に向けて、課内による打合せ・検討をしたい。

問 国民健康保険事業の広域化の協議状況は
答 各市町の状況から確定的ではない

議員

平成30年4月から、国民健康保険事業の広域化に向けた協議状況はどうなっているか。

議員

健康づくり事業の中でも予防や健診また、無関心層の対策は重要であると思うが。

住民課長

国の納付金額算定の遅れから、県内の市町間の保険税の平準化に向けた取り組み等の細部の調整事項については、最終的な判断・確認ができない状況である。

健康づくり専門監

特定健診の受診率は40・5%である。今後も広報等充実し受診勧奨に努めたい。本年は人間ドック、脳ドックの申込者が定員の約2倍であった。（対象者案内はがきの効果



●住民検診で健康管理を



溝口 誠 議員

問 認知症初期集中支援事業の体制整備と今後の取り組みは

答 自立した生活が送れるよう、ケースに応じた支援に努めたい

議員

認知症は今

や日本の社会において増加の一途をたどっており、対応を急ぐ必要がある。町内における認知症高齢者数と生活に支援を必要としている認知症高齢者数について問う。

長寿社会課長

認知

症の方が何名いるのかは、個人のプライバシーもあり正確な人数はわからない。平成

議員

認知症施策

推進事業によって認知症初期集中支援チームを編成し、早期診

断と対応を図ることとされている。その体制整備の状況と今後の取り組みはどうされていくのか。

長寿社会課長

平成

27年の要介護認定者の24.7%の方が認知症で、平成28年の地域包括支援センターへの相談414件のうち25%113件が認知症の相談内容であり、その割合以上の方が認知症であると思われる。

た支援に努めたい。

議員

認知症の人

の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けられることができるように、新オレンジプランが策定されている。実現できるようにしていきたい。

長寿社会課長

適切

な医療と介護の連携の体制を作っていくたい。

問 不法投棄物の撤去と不法投棄を防止する対策はどう行っていくのか

答 地権者等の管理者の撤去を原則とし、町と地元と連携し対応したい

議員

不法投棄防

止対策について、生活環境保全に向けた取り組みと環境保全監視員の活動の状況は。

生活環境課長

対策

として、町広報やホームページ、ケーブルテ

岸部に投棄が多くみ

られる。撤去についての町の対応方針は。

生活環境課長

地権

者等の管理者で撤去を行うことが原則である。ただし、管理者のみでは無理がある

問 児童生徒の教育環境の充実のために学校のトイレの洋式化を

答 学校施設整備の一環として検討

議員

小中学校施

設におけるトイレの現状はどのようになっているのか。

学校教育課長

大便

器421個のうち、和式が301個で71%、洋式が123個29%となっている。

議員

生活様式の

変化によりトイレの洋式化は必須である。災害時の避難所ともなっているため、計画を立てて改修していくべきでは。

場合は、地元と協議しながら側面的に対処したい。

※オレンジプランとは…国が認知症対策として総合的に取り組む国家戦略の通称



●晴天に恵まれた小学校の運動会



片 刈 彰 議員

問 町内には280kmの農業用排水路があり、その堆積土を盛土に

答 堆積土が多く発生した場合は、関係機関と連携調整する必要がある

議員 有明海沿岸 道路佐賀福富道路の試験盛土は山土を利用されているが、福富鹿島道路の整備区間の盛土は。

建設課長 福富工区は現在試験盛土を実施中で、山土の新規土と、嬉野市での県道の掘削工事の発生土を搬入して実施されていると聞いている。福富

ないか。それにより現在施工されている暗渠排水の流れが良く、良好な圃場になり、一次産業へも寄与することができる。水路を浚渫することで降雨時の内水被害の緩和にもなるのでは。

農村整備課長 現在、農業用排水路の維持管理については、町、土地改良区、農地水など

地元と連携を図りながら進めている。水路の整備については、堆積した泥土を浚渫し発生土で法面や畦畔を復旧している。隣接

する農地でも活用している。現時点で有明海沿岸道路の盛土に活用する土砂は発生しないと考えている。

議員 毎年、水路には泥土の堆積があり、福富鹿島道路の整備のときは、必ず浚渫が必要になるので、今から計画を立てるべきでは。

農村整備課長 今後、町内で処分しきれない浚渫土が発生した場合に、流用先、流用方法など関係機関と連携しながら調整する必要があると考える。

問 ふるさと納税の謝礼品に係る総務省通知による対応は

答 謝礼品は本町特産物に限定している

議員 総務省は、加熱味のふるさと納税の競争について、謝礼品は寄付額の3割までとするよう通知

特産物等に限定しており、制度の趣旨に反するものはない。謝礼品は寄付額の3割以下となるように検討したい。

議員 ふるさと寄付金は貴重な財源である。継続して応援していただけるような施策は。

産業創生課長 寄付額の増加に向けて情報発信を強化する。また、謝礼品を送付する際に特産物の紹介や暑中見舞のハガキを送っている。

議員 ふるさと納税の業務を委託する

考えは。

産業創生課長

ふるさと寄付金を業務委託費として充てることは、寄付者の応援したい意図と反するので、今までどおり町が行う業務として取り組んでいく。

議員 本町は職員の再任用も行われている。経験豊富な人材を活用した組織（ふるさと納税課）を新設してはどうか。

町長 今後、寄付件数や寄付額などが伸びていくなかで、OBなどの活用も検討したい。



●ふるさと納税の謝礼品としても人気が高い6次産品



中村秀子 議員

問 小中学生のスポーツ活動への指導と支援は

答 健全育成の視点に立ち、指導者の協力を得ながらよりよい支援を進める

議員 社会体育の意義や在り方、また支援は。

生涯学習課長 児童生徒の望ましい成長及び社会性を培う事に意義があり、保護者と指導者が良好な関係を保ち、正しい理解で活動を行うことが重要である。また、活動に対する補助や大会開催等の支援をしている。

議員 中学校職員の部活動に対する負担の現状は。

主任指導主事 指導する部活動経験のない職員が5%である。土日の活動や保護者との対応や生徒指導等で負担を感じている。

議員 中学校の外部指導者派遣事業について現状と課題は。

学校教育課長 現在7人の指導者を派遣

している。人材の確保、学校の教育方針の共通理解、人事異動等の課題がある。

議員 4月に制度化された部活動指導員制度を取り入れることについての考えは。

主任指導主事 現在行っている外部指導者派遣事業を有効に活用し拡充しながら、県教委と連絡をとり、

具体化が出来ればと考えている。



問 深刻な状況の特定空家への対応は

答 白石町特定空家等除去事業を進め、チラシ等での啓発と指導を行う

議員 町内の空家の現状は。

総務課長 現在193軒の空家があり、そのうち2軒を特定空家等と認定している。

議員 深刻な状況の空家への対応は。

総務課長 危険家屋として42件の相談があり、適正管理を指導しているが、所有者の

意識が低く改善に繋がらない。白石町特定空家等除去事業を立ち上げ、対策検討委員会で協議して特定空家等にならないような啓発や、解体等の経済的負担の軽減のため補助金を創設している。また、災害に備え、部材が飛散しないよう指導助言している。

問 本町での女性が活躍するまちづくりの推進は

答 女性監督職及び管理職30%を目指し、研修で意識改革を図り環境を作る

議員 女性の活躍する地域づくりを町長としてどのように考えているのか。

町長 第2次白石町男女共同参画推進プランのもと、仕事・経営における女性参画の推進を目指す。男女を問わず、慣習にとらわれず、変化に対応し、人権を尊重するよう意識改革に取り組み、個性を発揮して、地域で積極的

副町長 人事制度は昇任選考制度と自己申告制度があり、昇任希望をとるが希望者が少ない。不安を払拭するよう研修を行い、適材適所で活躍できる人材を育成し積極的な登用を図りたい。



●多くの人で賑わう女性活躍の推進イベント



友田香将雄 議員

問 認知症キッズサポーター制度導入で、積極的な支援を

答 子ども達には高齢者との交流や体験学習で理解を持たせている

議員 認知症を患う方、ご家族の負担は我々の想像を超えるものがある。厚生労働省は認知症への理解を深めるキャンペーンを平成17年から行っており、その一環として「認知症サポーター100万人キヤラバン」を実施している。本町も現在行っているが、どのような取り組みか。

長寿社会課長 認知

等との連携や、サポーターのフォローアップを行い、実効性を高める取り組みが必要。

議員 熊本県菊池市では、全小中学校で認知症サポーター養成講座を実施している。その取組は国際会議の中でも注目され、武雄市でも中学校での養成講座を行っている。白石町でも取り入れる事ができないか。

学校教育課長 各学校の判断で取り組むことは可能だが、白石町では高齢者との交流や体験学習にて認知症に対する理解を持たせている。



●認知症サポーター研修の受講者の証のオレンジリング

議員 熊本の取り組みのように、子ども達が地域の目となり、大人と連携する仕組みは必要だと考えるが、

町長 認知症や障がい者の方と子ども達が接していくという事は絶対に必要な事。何らかの形で検討していきたい。

議員 今後のICT教育を進めていく必要がある。導要領では小学校の

主任指導主事 今後の課題はどのようなものがあるか。電子黒板を使用することにより、映像で学習内容を確認できる良さがある。しかし、従来の読み書き計算などについても欠かせないものがある。複合的に取り入れながら、今後のICT教育を進めていく必要がある。現場からの声も聞いているので、リリース期間が終了すれば、より良い形で学校に提供できるように検討していく。

問 町民に興味をもってもらえるよう、より積極的な行政情報の公開を

答 情報公開条例に則って取り組んでいるが、今後も検討が必要と思う

問 ICT利活用やプログラミング教育の必修化に向けてパソコンの整備を

答 現場の声を重視しながら、より良い形で提供できるよう検討する

議員 学校におけるICTの利活用について一定の効果が上がっているようだが、今後ICT利活用を進めていくにあたり

議員 町民の方に行政について興味を持ってもらう事が町の発展として必要と考えるが、特に若い世代では町の事についてよく知らないとの声が多いようである。興味を持ってもらえ

町長 情報公開条例があるので、その中で検討をしていく必要があると思う。



重富邦夫 議員

問 本町が推進する農業経営体系の在り方と方向性は

答 高品質化、低コスト化、経営の体質強化策に力を注ぐ

議員

日本の農業を取りまく環境が、ＴＰＰをはじめ農業従事者の高齢化、担い手不足等、一段と厳しさを増す中において、本町農業も大きな転機をむかえている。今後の農業経営体系の在り方と方向性は。

町長 米の価格低迷、高齢化、後継者不足による生産基盤の脆弱

化等、厳しい状況にある。農業は、本町にとって地域を支える基幹的な産業であり、高品質化、低コスト化のための新品種や新技術の普及や経営の体質強化策等に力を注ぎ、作ること、売ること、人づくりをそれぞれの施策で進めていく。

問 農地集積事業による農業委員会が果たす役割は

答 効果的な農地利用の調整に努める

議員

農地制度改正による農地集積事業等の業務で、力ギがついたり狭い農地、排水が悪く生産性に乏しい農地など悪条件の農地に対しての対策は。

農業委員会事務局長

農地の貸し借り、売買については地権者



●白岩地区果樹試験場の視察

問 大規模災害を想定し自主防災組織の推進が必要では

答 共助の意識向上のためにも自主防災組織の推進に努める

議員

熊本地震の被災地では、大規模災害により数々の想定外の問題が発生している中、地元住民の助け合いで人命救助や避難所運営、物資の配給等が行われている。本町として自主防災組織の推進が必要ではないか。

総務課長

日頃から地域に密着した防災活動を担っている消防団については、幅広い活動に従事し役割の重要性が再認識されている。しかし大規模災害時における公助には限界があり、住民同士が助け合う共助が災害発生初期から重要であると考えている。本町では自主防災組織の組織率が伸び悩んでいるが、リーダーの発掘や育成を図り組織率向上につなげたい。

問 業務継続計画（ＢＣＰ）の策定状況は

答 早期に取りかかりたい

議員

被災地では大規模災害時に対応する職員の数が足りず大変苦労をされている。災害対策と並行しながら通常業務を行うことは、綿密な計画と訓練が必要と思われる。本町における

総務課長

ＢＣＰの策定状況について問う。過去の大型模災害時には、行政機能に支障をきたした事例がある。各課から選出した策定チームを立ち上げ、早期に取りかかりたい。

総務常任委員会

タブレットの会議システムを研究

5月10日、タブレットを使ったペーパーレス会議システムの説明を受けた。近年でも全国の多くの自治体でペーパーレス化が進んでいる状況を鑑み、総務委員会では執行部との会議及び非常時の連絡手段を含めて研究を行うこととした。当日は、実際の議案をデータ化したものを操作しながら意見交換を行った。大量の資料を持ち歩く必要もなく、過去の資料も数年分はデータ保存できることで、検索や比較する作業の効率化が図られることがわかった。これからも行政改革の一環で職員削減も進む中において、職員の負担軽減が図れるように、議会サイドも会議システムの導入を急ぐ必要性を認識した。



●タブレットの操作方法の研修

文教厚生常任委員会

「特別養護老人ホーム」を視察

4月21日、特別養護老人ホーム歌垣の園を視察し、介護保険サービス利用や施設の現状について施設長や相談員と意見を交わした。現在の入所者は54人で介護度の平均4.4で平均年齢は92歳であった。ショートステイ、デイサービスの利用が増えており、平成18年からは介護予防のデイサービスにも力を入れられていた。

施設は約40年前に建設され、当時は近くに住宅がないところを選んで位置を決定されていたとのことであった。近年は家族も高齢化して、見舞いに不便をきたし、通勤の面からも職員の採用にも影響あるとのことであった。全国的にも介護士が不足しており、離職も多い状況も報告された。近い将来、施設の移転を計画されているとのことであり、

防災面や介護士の確保も含めてバックアップしていくように、議会としても関係機関へ働きかけが必要であることを認識した。



●施設長から説明を受ける

産業建設常任委員会

「玉葱べと病の研究状況」を視察

4月26日、佐賀県農業試験研究センター白石分場の視察し、分場長と研究員からタマネギべと病の研究状況の説明を受けた。白石分場では、露地野菜、タマネギべと病研究、イチゴの新品種研究に力を入れておられ、今年度は玉葱を中心とした課題に重点的に取り組むこととされ、防除技術は、佐賀大学、県、JAと役割分担をして取り組まれているとのことであった。「佐賀県タマネギべと病対策会議」を立ち上げ、多くの啓発活動により、農家の定期的な薬剤散布と排水対策が徹底され、べと病の発生株率は昨年よりやや少ない状況が報告された。危機的な状況を一刻も早く克服できるよう日々尽力されておられ、将来を見据えながら玉葱の直播栽培や省力化の研究にも力を注がれていた。

町は、白石ブランドの確立に向けて、これから農家の意欲向上と経営安定に向けた支援を継続させていくことが重要であることを認識した。



●白石分場の担当者から説明を受ける

最近の主な議員活動 4月～6月



月	日	曜	活 動 内 容
4	1	土	町立保育園入園式(福田、福富、ふたば、わかば)
	2	日	消防団入退団式
	3	月	町立保育園入園式(みのり)
	4	火	町立保育園入園式(あかり)須古保育園入園式
	7	金	春の交通安全県民運動街頭指導
	8	土	町立保育園入園式(六角)
	10	月	中学校入学式
	11	火	小学校入学式
	12	水	議員例会 政治倫理特別委員会
	13	木	白石町スポーツ推進委員協議会
	14	金	まちおこし運営委員会 護国神社例大祭
			自衛隊父兄会総会
	21	金	文教厚生常任委員会所管事務調査 商工会青年部通常総会
	22	土	白石町地域婦人連絡協議会総会
	23	日	しろいし歌垣春まつり
	24	月	3町及び白石警察署合同会談
	25	火	杵島郡スポーツ推進委員協議会
	26	水	産業建設常任委員会所管事務調査
	27	木	杵藤地区正副町村議長会議
	28	金	佐賀地区建設関係合同期成会総会
5	1	月	白石町身体障害者福祉協会白石支部総会
	10	水	議員例会 総務常任委員会
	11	木	老人クラブ連合会有明支部総会 町村議会議長会議
	12	金	町老人クラブ連合会定期総代会 白石町ボランティア連絡協議会総会
	16	火	白石町身体障害者福祉協会総会
	17	水	戦没者追悼式
	19	金	町村議会議長会議臨時議会

月	日	曜	活 動 内 容
5	21	日	中学校体育大会
	22	月	南部地区小児時間外診療センター運営委員会
	23	火	国民健康保険運営協議会
	24	水	白石町商工会総代会
	25	木	白石地区防犯協会役員会・総会 政治倫理特別委員会
	26	金	筑後川土地改良事業杵島地区推進協議会総会 白石町文化振興財団評議員会
	27	土	杵島郡身体障害者福祉協会総会
	28	日	小学校運動会 関西福富会
	29	月	社会福祉協議会理事会
	30	火	青少年育成町民会議理事会
	31	水	白石町教育研究会全員集会 杵島郡体育協会理事会 全国議長、副議長研修会
6	2	金	議会運営委員会
	5	月	平成35年国民体育大会・障害者スポーツ大会準備委員会総会
	6	火	防災会議
	8	木	学校訪問(須古小)
	9	金	6月議会開会
	11	日	白石町手をつなぐ育成会定期総会
	12	月	一般質問(4人)
	13	火	一般質問(4人)
	14	水	議案審議
	16	金	議案審議 6月定例会閉会 議会だより編集会議
	19	月	有明海沿岸道路協議会会計監査
	23	金	学校訪問(有明西小)
	24	土	青少年育成町民会議総会
	27	火	佐賀政経セミナー
	28	水	学校訪問(白石小)
	29	木	議会だより編集会議

議会広報特別委員会報告



●みやき町を視察し研修を受ける

みやき町の議会を視察

※裏面参照

2月15日(水)、県内で最も早く、タブレット活用したペーパーレス会議システムを導入されているみやき町の議会を視察した。完全ペーパーレスに向けて平成26年11月から検討を開始され、平成28年11月臨時議会より本格導入をされていることが報告された。実際タブレットに触れてみて、画面はA4より小さいが会議で使う分は問題なく、会議すべてにおいてシステムを利用し紙の資料は使用しないこと。会議通知や業務連絡なども、すべて議員のタブレットにメールされスケジュール登録されている。なお、ソフトウェアはクラウド型を利用することにより、職員の労力軽減につながっていることがわかった。

これを機会に当委員会においても、防災時の情報連絡等のことを含めたシステム導入に向けて研究を重ねていくこととしたい。

要望書を受け取りました 3件

●集落内町道一部拡幅整備の要望について

提出者 嘉瀬川区長 山崎 春樹

●町内建設業者育成と建設労働者の雇用確保等のための配慮の要望

提出者 白石町建設業組合会長 溝口 隆治

●町道112号線（神辺～岡崎区間）の拡幅の要望

提出者 神辺区長 原 義博

岡崎区長 川崎 弘己



ペーパーレス会議システム(P13より)とは、電子化した資料をパソコン・タブレットで運用する会議システムです。会議をペーパーレスにすることで、印刷にかかるトナーや紙代を削減するだけでなく、会議運営にかかる膨大な工数(資料印刷と配布、会議終了後の資料回収や保管場所の確保など)も削減できます。タブレットは操作がシンプルなので、パソコンに不慣れな方でもスムーズに会議を進められることができます。なお、システムの便利な機能により、議論に集中でき会議の活性化にもつながります。また、事前に資料を印刷・配布する必要がないため、紙代、プリント代の経費節約にとどまらず、準備にかかる手間と時間、会議終了後の資料回収の手間などの労力が大幅に削減されることが期待できます。



議会戦隊 炊飯ジャー

作:Sachieemon

第14話「定例会」



※定例会とは
付議事件の有無にかかわらず、定期的に招集される会議

編集後記

4月の入学式から3箇月が過ぎ、大きいランドセルに翻弄されていた1年生が、今では力強い足取りで学校に向かっています。たったの数箇月で見違えるように成長する子ども達。私も日々精進してい

なければ！この度、広報委員会の副委員長として役目を頂きました。町民の皆様に議会が何をやっているのか少しでもわかりやすくお伝えできるよう、委員会メンバー皆で試行錯誤して製作している「議会だより」ですので、是非読んでください。(Tomoda)



白石町議会だより/第50号

発行/白石町議会 佐賀県杵島郡白石町大字福田1247-1
TEL 0952-84-7126 FAX 0952-84-6611
編集/議会広報特別委員会
責任者/白石町議会議長 片渕栄二郎

編集委員/委員長 前田弘次郎
副委員長 友田香将雄
委員 川崎 一平
〃 定松 弘介
〃 中村 秀子
〃 重富 邦夫